平成二十六年二月

道明寺天満宮梅まつり

奉納俳句入賞作品

一般の部

梅賞　咲き初めし梅の蕊より香の立ちぬ

柏原　東尾　恵子

評　開いたばかりの梅の花に近づくと蕊の中心から芳香が立って来た。

松賞　白梅や今日ある幸の喜寿迎ふ

松原　北村　照代

評　天満宮の老木の白梅の下に立ち、今日あるいのちながを感謝する。

竹賞　盆梅展枝振りを誉め鉢を誉め

藤井寺　近藤登志子

評　連れ立って見巡る盆梅展。花のさま、枝の張り具合、鉢まで誉めて。

佳作　紅梅の膨らんでをり濡れてをり

藤井寺　羽根　鈴子

白梅の天を刺しゐる瑞枝かな

藤井寺　小山　尚子

撫で牛のまろき眼に梅の影

藤井寺　渡邊　保

修羅を曳く昔ありけり楷芽吹く

太子町　麻野　明子

神の鈴鳴らす親子に梅香る

藤井寺　若松　雅枝

紅梅や若き宮司の背筋伸ぶ

藤井寺　尾辻　純江

亡き母と観た梅香る天満宮

藤井寺　加藤　庸子

目の見えぬ母の笑顔に梅の花

藤井寺　衛藤　和美

軸えらぶ骨董市の梅見かな

尼崎　石井　和子

梅の宮写真の母と連れだちて

藤井寺　桑山　文子

子どもの部

雪やこんこんぼくの足あと天神まで

堺　井門真太郎

評　雪は小止みになってきたが、既に一面の銀世界。足跡をつけながらのお参り。

評　俳人協会会員の桃井克夫氏

主催　藤井寺市観光ボランテイアの会